

令和5年度小平市立第六小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

「知識・技能」と「思考・判断・表現」を比べると、「思考・判断・表現」の方が全国平均よりやや上回っていた。

多くの事項の正答率が全国平均より高かった。特に書くことの正答率が全国平均より8ポイント上回り、最も高かった。

最終問題3の設問二、三では、無回答率が15%前後であった。問題の内容を理解するのに時間がかかり、最終問題までたどり着けなかったことが分かった。今後、時間内で一定量の文章を読み取る力を育む指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

引き続き「読むこと」に重点を置いた指導を行う。

まとまった量の文章を限られた時間の中で読み取り、内容を正確に読み取ることを意識した指導を行っていく。さらに複数の情報と情報との関係について理解し活用していけるように、授業の中で言語活動を設定し、一層力を付けることができるようにする。

【算数】

状況の分析

課題

「知識・技能」と「思考・判断・表現」を比べると、「知識・技能」は全国平均よりやや上回り「思考・判断・表現」はやや下回った。

「図形」「測定」は2ポイント上回り、「数と計算」「データの活用」は全国平均より2ポイント下回った。

無回答率が多かった問題は、問題場面を解釈して、言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題と図を基に意味をとらえる問題であった。複数の情報から必要なことを読み取り、問題場面に合わせて解く力を付けさせる必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

引き続き、数学的な見方・考え方を働かせながら問題を解決させたり、計算の仕方を公式が成り立つ過程を押さえたりする指導を行う。

基礎基本の定着を図る練習問題も重点的に取り組む。合わせて、既習事項を用いて様々な問題を解くなどの応用的な内容の練習問題に取り組む時間を確保していく。

文章問題に取り組む際は、情報を正しくとらえ、問題場面を適格にとらえる力を付けられるように意識して指導を行う。

【質問紙】

状況の分析

課題

算数は大切だと思っているが、好きではないと答えた児童が3割を超えている。国語は大切だと感じている児童は8割を超え、授業の内容理解ができていると感じている児童も9割を超えており対照的である。

自己有用感が高い児童が多い。一方で規範意識はやや低かった。

算数の授業内容を概ね理解し、大切な教科だと感じている結果にもかかわらず、算数嫌いの傾向が顕著に表れた。算数の調査結果からみても国語に比べて得点率が低いことから、学習内容を理解させ、しっかりと定着させていく必要がある。

また規範意識が高まるように、日々の生活指導や授業のなかで継続した指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

算数科においては習熟度別の授業を生かし、学習内容を正しく理解させることを積み重ねていく。また理解したことを定着させられるように、練習問題に取り組む機会を確保する。それを繰り返すことで、ワークテスト等の結果だけでなく児童自身の実感として「学習内容が分かる」と感じられるようにしていく。

規範意識を高めるために、なぜその行動をしてはいけないのか、どのような行動をすればよいのかということを日頃から問うことを意識していく。また特別な教科「道徳」では、規範意識に関する内容を扱う際には、日常生活を振り返らせるようにし、学習したことを実践しようとする態度を高めていけるようにする。